



2014年度  
**大学学部入学式式辞**

2014年4月1日

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。慶應義塾大学を代表して皆さんを歓迎し入学をお祝いいたします。また新入生の御家族、関係者の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

慶應義塾では、学生を塾生と呼んでいます。皆さんは今日から慶應義塾大学の塾生になったわけです。そして卒業生は塾員と言われます。本日もこの会場には多くの塾員が来てくださっていますが、特に後ろのスタンドには、卒業50年目の塾員の方々が、新入生の入学を祝うために全国から駆けつけてくださっています。誠に有り難いことです。新入生とともに御礼を申し上げます。有り難うございます。

さて今日わたくしたちは大きな変化の時代を生きています。それは人口や技術といった経済社会の基本構造がまったく変わってしまうような大きな変化です。そしてまた今日は、世界の相互依存がますます広がり、かつ深まる国際化の時代でもあります。

そうした大きな変化のときには、新し

い状況を自らの頭で理解して問題を解決する力、つまり自分の頭でものを考える力がますます求められるようになります。また国際化の進むなかで、異なる言語や文化的背景を持った人たちと仕事し、生活をする力、つまり多様性を受容する力がますます大切になってきます。

このうち自分の頭で考えるというのは、なにも闇雲に思いを巡らすということではありません。系統的にものを考える、つまりシステムティックにものを考えるということことです。すなわち、まず考えるべき問題を見つけ、次にその問題がなぜ起きているのかを説明する論理を組み立て、その説明の論理が本当に正しいかどうかを何らかの方法で確認し、正しければそれに従って問題を解決するというプロセスです。

実はこれは、これから皆さんが学ぶ学問の方法、つまり未解決の問題を見つけて研究テーマとし、その問題を説明するさしあたっての説、仮説を作り、その仮説が正しいかどうかを客観的な方法で検証する、自然科学であれば実験などによって、社会科学であれば統計分析などによって、人文科学であれば文献調査などによって検証して結論を導く、というプロセスに他なりません。高校までの勉

強と大学での勉強の最も大きな違いは、高校までは入学試験に象徴されるように、正解のある問題を解くことが中心であったのに対して、大学での勉強は、今申し上げたプロセスで、まだ答えのない問題に取り組むことが重視されるということです。そこで皆さんは、まず幅広く学問を勉強し学問の方法を学んでください。その上で、自らテーマを見つけてレポートや最終的には卒業論文を書くなどして、奥深く研究することで、学問の方法を実践し、自ら考える力をしっかりと身に付けていただきたいと思えます。

国際化への対応として異文化を受容する力を磨くことも大切です。まず異なる言語を持つ人たちとのコミュニケーションの道具としての外国語をしっかりと学んでください。慶應義塾大学では英語をはじめ多くの言語を学ぶことができます。

さらに文化的背景を異にする人たちが、実は先ほど申し上げた学問の方法論による論理と実証です。ものごとを説明する論理、そしてそれを証明する実験や統計手法などは万国共通のもので、だからこそ論理と実証による学問世界では国際的な交流がごく普通に行われるわけ

です。その意味で学問による論理と実証の力を養うことは、国際化への対応力を付けるためにも大切であるといえます。

皆さんは慶應義塾大学と100を超え海外有力校との交換留学プログラムなどによって海外で学ぶ機会を得ることもできますし、また教室や研究会などで国内からの塾生と海外からの塾生が一緒に学ぶ機会もあります。ここで大切なのは、皆さんが国内からの塾生、海外からの塾生の別を問わず、一緒に机を並べて学び、議論するということです。慶應義塾大学では、内外の学生が共に学ぶことのできる一体的プログラムを充実させていますから、そうした機会を是非積極的に生かしてください。

さて私たち慶應義塾の創立者は皆さんご存知の通り福澤諭吉ですが、福澤先生もまた大きな変化と国際化の時代を生きた方でした。封建の江戸時代に生まれ明治維新を経て近代の明治を生きたという、先生の言葉を借りれば「あたかも一身にして二生を経るが如く」、つまりまるで一人の人間が二つの人生を生きたようなものだ、というまさに社会の大転換期でした。その時代はまた日本が、二世紀以上にわたる鎖国を解いて国を海外に開い

た、急激な国際化の時代でもありました。そうした大きな変化と国際化の時代に、福澤先生は、新しい状況を自らの頭で考え、理解することで問題を解決し、また異文化にも柔軟に対応しうる、そうした人材を育てようとして慶應義塾を作られたわけであります。

社会の仕組みが180度変化するような時代には、過去の延長線上でものを考えることはできません。学問によって、自分の頭でものを考えることのできる人が強く求められたわけです。だからこそ福澤先生は『学問のすゝめ』などで繰り返し学問の重要性を説き、学問によって自分の頭で考えることのできる人を育てようとしたのです。

異文化への対応ということ言えば、福澤先生はそもそもその最初から慶應義塾を蘭学塾、次いで英学塾といった西洋の学問を学ぶ「洋学塾」として始められました。ただしそれは日本人が西洋に全く同化するという意味ではありませんでした。それどころか、何でも西洋に倣うべきといった論者を文明開化の「開化先生」などと揶揄して戒めているほどです。先生は『文明論之概略』などで繰り返し述べられているように、あらゆるものを相対的に捉えるべきだと考えられてい

ます。当時の西洋文明を絶対視するのではなく、自ら考え、自らの立ち位置をしっかりと持ったうえで、異なる文化を理解し受容すべきだということでありました。

皆さんは慶應義塾大学で学ぶことによって、自分の頭で考える力、そして多様な文化や考えを受容する力をしっかりと養ってください。それはすなわち皆さんの、知性を高めるといふことであり、そして最後にもう一つ申し上げたいのは、同時に皆さんには人柄の力というべき力も養ってほしいということです。

実は社会生活、特に職業生活を充実したものにするためには、知性の力に加えて、人柄の力もまた重要であることが最近の研究で分かっています。ノーベル経済学賞受賞者でもあるシカゴ大学のジェイムス・ヘックマン教授などの実証分析では、責任感や勤勉性といった真面目さが、長い職業人生にプラスになることが統計的に明らかにされており、このことは慶應義塾の研究者を含む日本の研究者によっても実証されつつあります。また別の長寿に関する長期統計調査では、そうした真面目さが長生きにもプラスであることが確認されています。大切なのはそれが、学校教育や職場訓練などによ

って意識的に身に付けることのできるもの  
のだ、ということですよ。

しっかりと勉強し研究をすることで、  
皆さんの持っている真面目さといった人  
柄の力にさらに磨きをかけてください。  
特にそうした力は課外活動を通じても大  
いに高められます。スポーツ、芸術、学  
芸等の課外活動にも積極的に参加して  
ください。

福澤先生は『文明論之概略』の中で、「文  
明とは人の安楽と品位との進歩」、つま  
り生活水準と人間性の向上にあり、それ  
らをもたらずのはインテレクトすなわち  
智と、モラルすなわち徳の向上であるか  
ら、結局のところ「文明の進歩は世人一  
般の智徳の発生に関するものなり」と明  
快に文明を定義しています。このことは  
知性と人柄の両方を磨くことの大切さを  
説いておられるとも言えるでしょう。慶  
應義塾大学にはそうした智と徳を磨く機  
会がたくさんあります。皆さんは是非そ  
れを十分に活用してください。

大学の価値は、卒業生が、その大学で  
学んでよかったとあとからしみじみ思え  
るかどうかで決まると考えています。そ  
の意味で先ほど御紹介しましたように卒  
業50年の塾員の方々が、皆さんの入学を

祝うために全国から駆けつけてくださっ  
たということは大変に嬉しいことです。  
皆さん慶應に学んでよかったと考えてお  
られるからこそ、後輩の門出を祝うため  
にわざわざ来てくださったっているわけで、  
私たちは新入生の皆さんも、大学卒業50  
年後に後輩のために入学式に来てくれる  
ような学塾にしなければと思います。

改めて皆さんの慶應義塾におけるこれ  
からの大学生活が実り多く、そして楽し  
いものであるようお祈りして私の式辞と  
いたします。さて今日の入学式には海外  
からの留学生も出席しておられますので、  
最後に短く英語による式辞も付け加えさ  
せていただきたいと思います。

Since there are a number of international students joining Keio today,  
I would like to make some remarks in English very briefly.

First of all, to all the new students, on behalf of the entire community  
of Keio University, I would like to welcome you and to extend my  
heartfelt congratulations.

I would also like to offer my sincere congratulations to your families  
and friends.

Now we are living in a time of great change and of a rapid  
internationalization of our society, and you have to obtain the ability to  
work and live with these changing and internationalized circumstance.

The founder of Keio, Yukichi Fukuzawa, or Fukuzawa-sensei, also  
lived in a time of great change in both the feudal Edo period and the  
modern Meiji period.

It was also a time of great internationalization for Japan, which opened  
its ports to foreign countries after more than two centuries of national  
isolation.

In such a time, Fukuzawa-sensei established Keio in order to foster  
young people who could contribute to the independence and  
modernization of Japan by thinking for themselves and responding  
appropriately to foreign culture.

Given that the principles of Fukuzawa-sensei are honored at Keio to  
this day, I am very confident that you will be able to obtain the ability  
to think for yourself and to understand and respect foreign culture  
here at Keio University.

I hope that you all have a really meaningful and enjoyable student life  
here at Keio.

Once again, I congratulate you all, and thank you all very much.